

Flakpanzerwagen604/4 KUGELBLITZ

Modeling by Kunihito Kawamura

クーゲルブリッツは1944年10月に展示用車両が一両完成し、1945年3月に2両が完成したとされている。唯一残る実車写真は1944年10月クマースドルフの試射場で撮影された写真があるのみ。

しかし、1945年4月、カッセルの南東60kmにあるSpichraをめぐる米第3軍との戦闘でクーゲルブリッツが投入され、破壊された残骸が1996年に回収されていることがWebで明らかになった。この残骸の写真からはターレットリングが取り付けられた天板にハの字型になったハッチ開口とおぼしき形状が見て取れ、砲塔を車体に搭載した完成車を実戦に参加したことを明示しているのである。

海外では2006年頃からピラ川に架かる橋と水力発電所を巡るSpichraの戦闘でクーゲルブリッツが使用されたことがモデラーの間でも知られるところとなり、ドラゴン製品を使ってそれを意識して作られた作品が幾つか見られる。日本では全然知られておらず、私がこの作品のために海外のサイトを調べていたときに発見した瞬間は「インターネットの神様」が降りてきたかと興奮した。

作品はシャシーにドラゴン6300番台の新型によるパーツを使用しフェンダーはPartのエッチングパーツを試してみた。クーゲルブリッツのシャシーは4突と同じ製造ラインで作られたと考えられ、末期の4突の特徴を参考にするのが適切だろう。しかし、この作品では戦車型(J型)シャシーの各部が簡略化された様相がいかにも大戦末期を表現できるのでJ型末期仕様のシャシーで制作した。残骸の写真からはハの字型の操縦手ハッチレイアウトや傾斜のない天板形状を読み取ることができ、ハッチはドラゴンのキットよりも内側に寄っているように見える。ここはもっと早く知っていたら工作で直したのだが。

塗装はクマースドルフ試験場での実車写真でやたらと明るく写っていることにインスパイアされ、大戦末期にオリーブグリーンが欠乏しドゥンケルゲルプが再び全面に塗られた想定で、ドゥンケルゲルプ単色仕上げとした。ウェザリングは控えめにし、生産されて1~2カ月でその短い生涯を終える、この車両の元気な姿を描いた。装備品も「生きている姿」として分かりやすいので装着させた。



<http://www.mihla.de/chr/050313V2.HTM>



<http://www.mihla.de/chr/050313V2.HTM>



ground photo : Google Earth

1/35 scale

DRAGON 6136 German 3cm Flakpanzer IV Kugelblitz (junk parts)

CYBER-HOBBY 6556 Pz.Kpfw. Panzer IV Ausf J Mid Production (junk parts)

PERFECT METAL GUN BARREL SERIES SR 35006SR 3cm Flak 103/38

PART P35-082 Fenders Pz.Kpfw.IV Ausf.F2/G

ABER 35A99 German tool holders-Late used from 1943(new release)

MODELKASTEN SK-27 Pz.4 Final Model (light weight)

EUREKA LH-01 Metal tow cables for AFV Kits 0.6mm

